

「葛飾区少年の主張大会」が 開催されました

平成29年11月18日、かつしかシンフォニーヒルズアイリスホールにおいて、応募総数487人の中から選ばれた小学生19人・中学生8人、計27人が、それぞれの主張を発表しました。結果は次のとおりです。

■小学生の部

最優秀賞

外川 歌恋(とがわかれん・花の木小6年)
「言葉と生きる」

渡辺 暖果(わたなべ はるか・本田小6年)
「咲いた花より咲かせた根の恩を知れ」

優秀賞

山中 穂波(やまなか ほなみ・青戸小6年)
「私が人として成長できた理由」

中嶋 理乃(なかじまりの・上平井小6年)
「外国人との対話の必要性」

栗岩 凛歌(くりいわ りんか・小松南小6年)
「言葉の魔法」

宇館 里玉(うだてりほ・東柴又小6年)
「奇跡を呼ぶあいさつ」

土信田 紘貴(どしだ ひろき・梅田小6年)
「ぼくは遊びたい」

入選

木村 瑠(きむらりゅう・木根川小6年)
高野 結芽(たかの ゆめ・よつぎ小6年)
植野 貴順(うえの たかみち・綾南小6年)
小林 諒也(こばやしりょうや・こすげ小6年)
宮城 羽那(みやぎ はな・上千葉小6年)
有坂 咲希(ありさか さき・中之台小5年)
長尾 遥芭(ながお ゆらは・鎌倉小6年)
横尾 駿(よこお しゅん・新宿小6年)
藪崎 友里(やぶさき ゆり・金町小6年)
若林 遥一(わかばやしはるいち・半田小6年)

滝澤 伶美(たきざわ れみ・幸田小6年)
横山 歆多(よこやまかんだ・南奥戸小6年)
■中学生の部
最優秀賞

大澤 菜々美(おおさわ ななみ・金町中2年)
「手から手へ世界をつなぐ」

優秀賞

佐藤 あみ(さとう あみ・高砂中3年)
「個性を理解すること」

松本 花音(まつもと かの・大道中3年)
「命」

入選

安田 光海(やすだ ひろみ・桜道中2年)
宮本 夏帆(みやもと なつほ・上平井中1年)
太田 朱音(おおた あかね・中川中2年)
古川 優花(ふるかわ ゆうか・堀切中3年)
鈴木 小夏(すずき こなつ・水元中3年)
(敬称略・同一賞内の順番は発表順)

地域教育課 ☎(5654) 8482



中学生の部・最優秀賞

手から手へ世界をつなぐ

金町中学校2年 大澤 菜々美

二〇二〇年に私達の暮らす町東京で二回目となるオリンピック、パラリンピックが開催されます。私は決まった時からゼビオンティアをしてみたいとただ漠然と思っていたが、この夏の経験でさらに叶えたい目標となりました。

その経験というのはこの夏葛飾区の海外派遣でオーストラリアへ行ったことです。ホームステイをして言語の違う人の中に入り生活しました。始めは不安でしたがそんな英語のみの不自由な生活にもだんだんと慣れてきました。最終日にはジェスチャーと英語を上手く使って感謝の気持ちを伝えることができました。今まで日本語で当たり前に感情を伝えてきたので、英語で感謝の気持ちで伝わった時はとても嬉しく海外派遣での成長も感じられました。そして海外派遣では英語の関心を深めると共にジェスチャーの大切さやコミュニケーションをとるための勇気をもつことを学びました。私が一つのコミュニケーションとして利用したジェスチャーは人間の意志の伝達方法です。言葉で思いが伝えられなかった時、このジェスチャーの大切さを痛感しました。

ここで私は一つの疑問が生まれました。それは、ジェスチャーと手話の違いです。調べてみると手話の方が難しいということがわかりました。例えば、「団扇をあおぐ」というジェスチャーの場合ただあおいでいる様子を表現だけです。しかし、手話の場合「夏」「団扇」「暑い」「今、あおいでいる」といった意味を伝えなければなりません。それは、ジェスチャーが会話の中で利用されるのに対し、手話は聴覚障害をもつ人にとつて、全てのことを手から伝えなければならぬためです。

私が手話に興味を持ち始めたのにはもう一つきっかけとなるエピソードがありました。それは遊園地に友人と行き、ゴーカートの列

に並んでいたときのことです。私は列の後ろに聴覚に障害がある子がいることに気づき友人に声をかけました。その子達は手話で会話をしていました。そしてその様子に気づいた係の人がもう一人に向かって「あの子達手話を使っているからこのボードを使つて。」

と乗り方や注意の書かれたボードを渡していただきました。私が友人と乗り終わり戻ってくるとちょうど説明していたところだったので少し興味があり見ていました。説明は指で字をなぞっていき乗り方などをジェスチャーして順調に終わりましたが、最後に男の人が意味が伝わっていないかの確認を行った時、女の子が後ずさりしました。そして少し困った顔をした後同じポーズで合図を送りました。私はその動作が気になって家に帰り調べてみました。するとそのジェスチャーは手話で男という意味を表すものでした。私達が良いと思つて使つても相手にとつては全く別の意味だつたということは知らないうちに相手を傷つけていることもあるのだと思ひました。私は生活の中でも似たような状況に出くわした時に知っておくことが助けられるかもしれない、と考える、手話に興味をもち勉強していきたいと思ひました。

駅やバスの中では『筆談具あります。』といった文字は見かけることが多くなりました。しかし少しでも手話に興味をもつ人が増えれば、お互いが暮らしやすい世の中になっていくのではないのでしょうか。

ホームステイ中はさりげないマザーのやさしさに何度も救われました。私も困っている人がいたらさりげないやさしさで助けられる人になりたいです。

私はボランティアとしてオリンピック、パラリンピックで世界共通である英語、手話、勇氣とやさしさでたくさんの人とコミュニケーションをとる、一人でも多くの人に日本の魅力を伝えていきたいです。

手から手へ世界をつないでいきたいです。皆さんも一緒にまずは「こんにちわ」から始めてみませんか。